＊鹿山会の活動は、皆さまの会費を原資に運営されています。活動の充実に向け、会費納入のご理解とご協力をお願いいたします。＊

(1) 年会費・運営寄附金納入お願い
(2) 鹿山文庫講演会案内
(3) 令和５年度第３回役員会報告
(4) 表彰受賞者紹介
(5) 会報記事「津田仙」の一部訂正
(6) 2023 佐倉秋祭りの“津田仙”
(7) サッカー部 OB 会設立準備会からのお知らせ ～すべてのサッカー部ＯＢの皆さんへ～
(8) 投稿をお待ちしています

□令和６年度（2024 年度）鹿山会総会：令和６年６月 15 日(土)開催予定です。

(1) 年会費・運営寄附金納入お願い

～年会費・寄附金の納入は「ゆうちょ銀行」で～

会員の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

昨年度は総額 396 万 3,186 円（令和４年度決算）の会費・寄附金のご協力をいただき、藩校創立 230 周年記念事業をはじめ、会員や在校生への会報の配布、生徒への各種助成等を実施することができました。衷心より厚く御礼申し上げます。

令和５年度も、生徒への助成等を順次実施しており、こうした事業は会員皆様の年会費・寄附金等を財源としております。

現在、年会費・寄附金の納入につきましては、ゆうちょ銀行によりお願いしております。以前は振込手数料は無料で、振込額から受取者（鹿山会）手数料が差し引かれ、その残額が鹿山会口座に振り込まれる取り扱いとなっておりました。

昨年１月に、この取り扱いが変更され、振込者手数料が１件当たり 110 円かかるようになっています。なお、ゆうちょ銀行口座からの振込は、従来通り振込者の手数料は無料となっており、振込額から受取者手数料が差し引かれることはこれまでと変わりません。

納入利便性向上のためのコンビニ納入等につきましては、そのための諸経費増により金額的な効果は得られない見通しでもあることから、引き続き検討課題とするものの、当面はゆうちょ銀行での取り扱いのみとして納入をお願いいたします。ご理解を頂けますようお願い申し上げます。

円安、物価上昇等の厳しい社会経済情勢のなか、振込手数料のご負担をお願いすることになりますが、納入者数も減少傾向が続いておりますことから、母校の生徒支援等に向けた鹿山会活動の維持充実を図るために、会員の皆様には引き続きご支援をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

(2) 鹿山文庫講演会のご案内

鹿山文庫講演会を開催いたします ＊会員以外の方も参加いただけます。

テーマ：津田 仙　19 世紀から 21 世紀へのメッセージ
～藩校成徳書院での学びから現代社会を問う～

講師　津田 守 氏
大阪大学・名古屋外国語大学名誉教授

内容　1837 年、佐倉藩小島家に生まれた仙は、満７歳で藩校の「西塾」に入り、満 14 歳から 21 歳頃まで成徳書院で武術、漢学、蘭学等を学ぶ。同時に若き侍として黒船を目撃し英学を目指す。その後の彼の生き方が現代人に問うていることは何か。

＊鹿山会報第 19 号４、５面参照　＊会報は鹿山会 HP でもご覧いただけます。

日　時　令和５年 11 月 25 日(土)14：00～　受付：13：３０～

会　場　佐倉高校内地域交流施設　定員 70 名程度(先着順)　無料

申込み　葉書に講座名「鹿山文庫講演会」、住所、氏名、電話番号（必須）

参加人数、メールアドレスを明記

＊葉書以外の申込みは受付けできません。

〒285-0033　佐倉高校「鹿山文庫講演会担当」あて

問合せ　043-484-1021　入江教諭

＊記念館特別公開は、施設管理の為実施されません。

(3) 令和５年度第３回役員会報告

日　時　令和５年 10 月 14 日(土)午前 10 時～

場　所　佐倉高校内地域交流施設

概　要

○新型コロナ感染症の５類移行に伴い、支部等の総会・会合が数多く開催されるようになっており、今後、さらに活動が活発化するように期待しています。

○同期会では、高齢化が進む卒年で、同期会から有志の会、クラス会などへ転換する話が進んでいるところもあり、今後、運営の多様化が進むのではないでしょうか。

○会費、寄附金の納入は、例年 10 月に会報とともに納入通知を送付し、納入期日は翌年３月末ですが、それ以降に納入される方もおられます。９月に入ると殆ど納入はなくなりますので、名簿印刷スケジュールからも令和４年度分は令和５年９月６日現在で納入者名簿を作成しています。それ以降の納入者は、来年度に前年度納入者として、別枠で報告します。

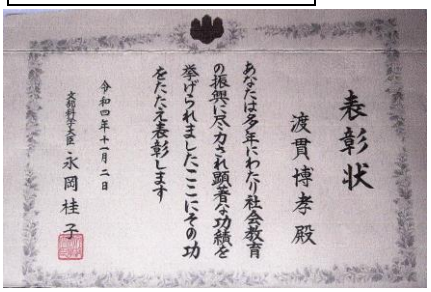
○令和５年 11 月 18 日開催の藩校サミットの参加者は、鹿山会役員・学校関係者等 16 名です。会場(文京シビックホール大ホール)には個別集合とします。＊参加費等必要経費は全額個人負担です。

○教育関係支援では、オランダ、ドイツへの海外研修(会報第 19 号３頁参照)が進められるとともに、各種スポーツ活動も活発化し、大会でも成果を上げています(会報第 19 号８頁参照)。

○会報第 19 号は 10 月 20 日の週に、順次発送になります。特集記事「津田仙」５頁文中の西暦表記に誤りがありました。お詫びし、訂正いたします。(トピック(5) 会報記事「津田仙」の一部訂正を参照)

筆者の津田先生が、佐倉の秋祭り(10/13～15)において、“津田仙キャンペーン”を展開されます。(トピック(6)2023 佐倉秋祭りの“津田仙”を参照)　＊キャンペーンは終了しています。

(4) 表彰受賞者紹介


表彰状

渡貫博孝殿

あなたは多年にわたり社会教育の振興に尽力され顕著な功績を挙げられましたここにその功をたたえ表彰します

令和四年十一月二日

文部科学大臣　永岡桂子

鹿山会顧問の渡貫博孝様が、令和４年 11 月、社会教育功労により文部科学大臣表彰を受賞されました。

『この栄誉は、公益社団法人日本弘道会のご推挙によるものであり、今後も己の身の丈の及ぶ限り、他に尽くしたい』と考えておられるとのことでございます。誠におめでとうございました。今後とも鹿山会活動にご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

＊会員が叙勲褒章、全国表彰等された場合、概ね１年以内に本部事務局までお知らせください。

(5)会報記事「津田仙」の一部訂正

環境保護のために

仙は食と健康のみならず、環境問題にも関心を寄せていた。それが足尾銅山(栃木県)の鉱害であった。田中正造が命を賭けてその対応に取り組んだことは知られている。仙はまず1982(明治25)年、足尾の土壌が小麦生育に与える影響を確認し、同年６月、『農業雑誌』に論文「足尾銅山の鉱害は試験上果たして作物に大害あり」を発表した。数年後に、たまたま米国マサチューセッツ農科

鹿山会報第 19 号特集記事「津田仙」５頁の「環境保護のために」記載中、

1982(誤)は 1892(正)です。

申し訳ございませんでした。

＊ホームページ掲載の「鹿山会報第 19 号」は、訂正後の PDF ファイルを掲載しています。

(6)2023 佐倉秋祭りの“津田仙”　＊終了しています

〇津田仙ゆかりの衣・食を　見る、食べる、飲む、体感！

〇津田仙ゆかりの衣　ころもを見る、着る。体感！

　津田守先生に、会報に特集記事「津田仙」を執筆いただき、鹿山文庫講演会の講師もお願いしておりますが、佐倉の秋祭り(10/13,14,15)において、先生により津田仙キャンペーンが行われました。

□主催：佐倉江戸明治キャンペーン(津田守先生)

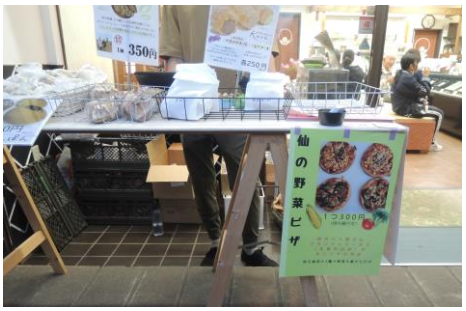
　共催：佐倉市教育委員会　後援：佐倉市　協力：佐倉市立美術館

□場所：美術館　小川園本店・木村屋本店

　美術館：佐倉藩砲兵隊員の服装を再現・展示・着衣体験等や仙の「衣」生活、活動に着目した衣類写真展示と仙ゆかりの食べ物・飲み物販売等

　飲食：小川園本店・木村屋本店：店頭にて販売、飲食

＊先生により印刷いただいた「会報第19号特集記事「津田仙」4,5頁をA4両面・モノクロで抜き刷りチラシ」が配布されました。鹿山会活動のPRにも繋がること、市内外から多くの皆様が集まる貴重な情報発信の機会であること、会報発行日直前でもあることから、先生によります事前の会報抜き刷り印刷、配布を確認しております。この活動に敬意を表する次第です。



▸津田仙ゆかりの衣・食を　見る、食べる、飲む、体感！

　仙は佐倉藩出身。17歳のとき藩校（現在の県立佐倉高等学校）に通う一方、砲兵隊の一員として、江戸湾に来航した黒船の警備にあたる（当時の制服を展示)。慶応3年、明治維新の前年に、福澤諭吉らと共に、幕府の外交通訳兼翻訳官として米国ワシントンD.C.に派遣される。往路のサンフランシスコで丁髷（ちょんまげ）を断ち江戸の留守家族に送った（展示にあるのは、その時に撮影された写真)。帰路には様々な野菜や果物の種や苗を土産に。帰国後、職を失った仙は、築地ホテルに勤め、欧米からの滞在客の食事には野菜、果物が欠かせないことを実感。麻布に自ら農園を営み、近代日本最初の農学校を創設。西洋の農学、林業学、園芸学、品種ごとの栽培技術などを活かすための人材育成と情報提供に携わる。

　仙が紹介し、全国に普及させた西洋野菜は、アスパラガス、アーティチョーク、イタリア大麦、オニオン、大麦、カラス麦、カリフラワー、トウモロコシ、トマト、ブロッコリー、レタス。果物はストロベリー、リンゴ、西洋種ブドウなど。中国からは栗。加えてアメリカに伝えたのは甲州種の柿（それは米国東海岸諸州で「ツダパーシモン」として親しまれる。仙は日本で初めて通信販売も実施。青山学院創始者のひとりでもある。＊当日配布のチラシから抜粋

▸津田仙ゆかりの衣　ころもを見る、着る。体感！

　仙はI837(天保8)年8月に佐倉藩士の家庭に生まれ、1908(明治41)年に一平民として召天しました。その70年間の生涯は、年齢、夏秋冬春の季節、生活スタイル、社会的活動、国内外の旅行など、状況に応じて、衣服を着用していたはずです。いつの時代も、誰でも衣食住のひとつ、「衣(ころも）」は欠かせません。

　私たちは、ここでは仙の「衣」生活に着目しました。衣服というものは、いつまでもそのまま保存されるとは限りません。今となっては本人ないしは様々な人の写真に頼らざるを得ません。そのいくつかの例をご紹介します。＊当日配布のチラシから抜粋

(7) サッカー部 OB 会設立準備会からのお知らせ

すべてのサッカー部ＯＢの皆さんへ　～サッカー部ＯＢ会の設立に向けて準備を進めています～

佐倉高校サッカー部は、いつ頃、どのようにして誕生したかご存知ですか？多分、ほとんどの方は、そんなことは考えたこともないかも知れませんね。入学したら、当たり前のようにサッカー部があって、活動場所も整っていたのではないでしょうか？

ここで少し、サッカー部誕生の頃のお話をしましょう。昭和 44 年（1969 年）4 月に入学した私は、クラスでの自己紹介で「サッカー同好会を作る！」と宣言しました。戦前にはサッカー部があったという話は聞いたように思いますが、戦争の影響で無くなってしまったとのことでした。入学当時は、サッカーはまだメジャーなスポーツではありませんでしたが、どうしても高校生活の中でサッカーを仲間と楽しみたいという思いが強く、同好会という形で設立を認めてもらう運動をしました。

その結果、１年生ばかり２６名が集まり、その年の 6 月 11 日に行われた生徒会評議会の場で設立の提案をし、活動を認められたわけです。「佐倉高校サッカー同好会」の正式な誕生です。この時期は、他の高校でもサッカー同好会が誕生していました。（千葉東高校、成東高校など）

初代の顧問には、体育科の角田節先生に無理を言って就任頂きました。活動場所（練習場所）は、校庭の隅で裏門の近くの三角形の空き地でした。もちろんゴールなどは無く、ボールは会費を集めて購入していました。サッカーらしいゲームができるのは、陸上部の練習の合間に、フィールド内にある木でできたゴールを使わせてもらってということが多かったと思います。

その後１年半を経過し、他校との練習試合も経験しながら徐々に力をつけていった頃、昭和 46 年（1971 年）3 月の生徒会評議会の場で、同好会からクラブ（部）への昇格願いを提案しました。練習場所もなく、実力もそれほどないのですから、反対するクラブ長（クラブの代表・主将）もいましたが、応援してくれる他の部の仲間たちがいたおかげで、念願のサッカークラブ（サッカー部）昇格となりました。

そして半世紀を経て、現在のサッカー部があるわけです。これまでにどれほどの部員が、鍋山の地で仲間たちとボールを友に、青春の日々を送ってきたことでしょう。

そんな昔に思いを馳せながら、語り合える、ボールを蹴りあえる機会を持ちたいと考えてきました。しかし、初代である私たちの実行力が不足しているせいか、なかなかＯＢ会設立までに至っていません。

そこで皆さんに力を貸していただき、今年こそは『サッカー部ＯＢ会』を立ち上げたいと思います。時こそ今。皆様からのご連絡をお待ちいたしております。世代を超えてキックオフ!どうぞよろしくお願いいたします。

代表者　サッカー部ＯＢ会設立準備会　並木克之
連絡先　　〒289－1212　山武市木原１４３７番地　並木克之　昭 47 年卒
電話　090－2745－9876
メール　namiki2917@nifty.com

(8)投稿をお待ちしています　鹿山会広報担当

会員皆様からの投稿をお待ちしています。ホームページや会報で紹介したいと思います。

テーマや文字数は問いません(営業、政治、宗教活動等不適当と思われる内容は除きます)。

ご自身のこと、同期の有志の会、クラス会、趣味の会、団体活動の立ち上げや参加者募集等、幅広く募集します。＊掲載する場合は、広報担当により調整させていただきます。

□記載必須事項

1.プロフィール等：氏名・卒年　2.原稿：①タイトル②本文③必要に応じ画像等

3.連絡先　住所、メールアドレス、電話番号

担当：鹿山会広報担当

大野直道・S45 年卒　E-mail　naomichi.ohno@catv296.ne.jp

通信の確実を期すため、西尾副会長(広報担当)への CC 送信を合わせてお願いいたします。

西尾 匡道・S56 年卒　m.nsho2@chiba-c.ed.jp